

医師確保計画の取組状況

計画の内容	取組状況・実績
(1) 医師の派遣調整 - 地域医療支援会議において派遣先医療機関を決定し、「地域枠・奨学金貸与医師を中心とした、キャリア形成プログラムの適用を受ける医師」の派遣調整を実施 - 派遣調整の対象とならない医師の派遣についても、医師確保の方針に沿ったものとなるよう、大学等に対して医師派遣を要請【県】 - 事前に各講座及び学内で調整し、大学の各講座やその他の医師の派遣を行っている医療機関等は、これまでの派遣先にとらわれることなく、医師派遣の方針に沿って派遣調整【大学】	- 地域医療支援会議において、翌年度の地域枠・奨学金貸与医師や義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣計画について審議した。 - また、医師の派遣調整等のほか、大学と調整したうえで地域枠設定を行った。 - 島根大学医学部附属病院において、医師派遣検討委員会が月1回開催され、地域に必要な医療の提供が確保できるよう検討を行った。
(2) キャリア形成プログラムの運用 - 策定したキャリア形成プログラムにより、地域枠等医師や自治医科大学卒業医師、医学生向け奨学金の貸与を受けた医師を支援【県】 - キャリア形成プログラムを活用し、県内医療機関での義務履行や、将来計画（キャリアプラン）の作成のサポート、大学や医療機関との調整などのキャリア形成を支援【しまね地域医療支援センター】 - 自治医科大学卒業医師は、引き続きキャリア形成を支援【県】	- しまね地域医療支援センターを中心に、地域枠や奨学金貸与医師が、へき地勤務と専門医取得が両立できるよう面談を行い、キャリア形成支援に取り組んだ。 - また、将来の適切な診療科選択等に活用してもらうため、医学生を対象にキャリア形成プログラムの説明会を実施した。 - 自治医科大学卒業医師については、学会参加や後期研修等、スキルアップの機会を確保するとともに、自治医科大学卒業医師を中心とする「しまね地域医療の会」で各地域での取組を共有するなど、情報交換を行った。
(3) 「地域枠・地元出身者枠」の設定、奨学金制度の運用 - 医学部の臨時定員も活用しながら、将来の地域医療を担う医学生を確保し、地域枠等の規模を維持・充実 - 地域枠医学生への奨学金の貸与の義務付けにより着実な県内定着を促進 - 大学に対して、特定の地域勤務の義務のある別枠方式による地域枠等を要請【県】 - 地域枠・奨学金貸与医師は、事実上、一定の範囲の診療領域に派遣されることが求められることから、不足する一定の診療領域に従事する仕組みを具体的に検討・構築 - 大学に対して、必要な「地域枠・地元出身者枠」の設置・増員等を要請	- 毎年度、地域枠の設定を大学に要請し、R7～R9にかけて地域枠定員を維持した。 - R2年度以降は、地域枠の学生に奨学金貸与を義務付け、卒業後の県内定着の促進を図った。 - 島根大学22名、鳥取大学島根県枠5名、全国大学枠5名の枠に対して奨学金を貸与した。 - 自治医科大学医学生を将来にわたり安定的に確保し、へき地医療体制の充実を図るため、R7年度から自治医科大学医学生に対する奨学金を貸与した。 <実績：奨学金新規貸与者数> R5 島根大学21名、鳥取大学5名、全国大学枠1名計（計27名） R6 島根大学14名、鳥取大学5名、全国大学枠0名（計19名） R7 島根大学19名、鳥取大学5名、全国大学枠1名、自治医科大学13名（計38名）

計画の内容	取組状況・実績
(4) しまね地域医療支援センターの取組 - 若手医師に対して、“入学から卒業後まで、切れ目ない一体的な支援”を実施 - 若手医師を対象とした研修や指導医の養成・確保を図るための研修等の充実 - 初期臨床研修医・専攻医の増加を図るため、県内外での説明会や病院見学旅費助成、SNS等による情報発信の充実 - 県外医学部に進学した学生や若手医師に対する情報提供の充実を図り、県内医療機関での勤務を働きかけ - 医師のワーク・ライフ・バランス等の勤務環境改善に向けた取組を推進	- 島根大学医学部地域医療支援学講座と連携し、学生時は支援学講座で、卒業後は支援センターと役割分担することで、切れ目ない一体的な支援を実施した。 - 県内の臨床研修医を対象とする合同研修会や指導医講習会を開催した。 - 研修内容の魅力を伝えるため、臨床研修病院合同説明会やしまね専門研修プログラム説明会を開催するとともに、県外からの研修医の増加を図るため病院見学旅費の支援を実施した。 『えんネット』を大学内に設置し、女性医師等の出産、育児後の復帰相談や復職支援を行った。 ＜実績：病院見学旅費支援＞ R5：28名 R6：47名 R7：62名
(5) 医学部進学者の確保 - 体験学習や医療セミナーの開催など、小中高生が医師を志すきっかけの創出や、動機付けに繋がる取組の充実【県】 - 地域枠医学生が誇りを持って学び、その姿が後輩や地域の小中高生の憧れとなるよう、地域枠の魅力向上を推進 - 自治医科大学の安定した入学者確保のため、大学説明会等や広報媒体を活用し、受験生の確保に向け更なる周知を実施	- 小中学校で地域医療をテーマとしたふるさと教育を実施してもらうための市町村支援や、教育委員会と連携し島根大学医学部や附属病院等の協力の下、医師講話や医学生との交流等をプログラムとするメディカルアカデミー（中学生向け）、医学部長講話や研修医・医学生とのグループワーク等をプログラムとする夢実現進学チャレンジセミナー（高校生向け）を実施した。 - また、しまね地域医療支援センター及び県内医療機関協力の下、中高生を対象に医療現場体験活動を実施した。 - しまね地域医療支援センターにおいて、地域枠等医師が中高生へ医師のやりがいを講演する等、市町村等が行う交流会の支援を行った。 - 自治医科大学について広く知ってもらうため、島根県出身の卒業生や医学生等を招き卒業後の勤務状況や大学生活の様子等について説明会を実施した。 ＜実績：メディカルアカデミー参加者数＞ R5：37人 R6：65人 R7：52人 ＜実績：夢実現進学チャレンジセミナー参加者数＞ R5：29人 R6：40人 R7：34人 ＜実績：医療現場体験活動参加者数＞ R5：146人 R6：141人 R7：112人 ＜実績：自治医科大学説明会参加者数＞ R5：41人（4会場） R6：30人（4会場） R7：23人（4会場）

計画の内容	取組状況・実績
(6) 地域医療を志す医師の養成【島根大学医学部地域医療支援学講座による取組】 - 卒業後は誇りを持って地域医療に従事する意志を醸成するため、地域医療実習の充実や地域を学び交流できる機会を創出 - 県内勤務に関心を持つ医学生や若手医師が、情報共有や意見交換を行うことのできるプラットフォームを、県、しまね地域医療支援センターと連携・協力して整備	- 地域枠等で入学した医学生の交流を深め、医学生に地域医療の魅力を伝えるための講義や地域医療実習等を実施した。 - 地域医療交流サロンを設置し、地域医療関係サークル活動や行政・医療機関との交流等に活用した。
(7) 臨床研修医の確保 - 医師養成過程を通じた医師偏在対策を講じるため、臨床研修指定病院の指定や定員の設定【県】 - 県内で臨床研修を義務付けた地域枠等の設置や、医学生向け奨学金の貸与による、臨床研修医の確保【県・大学】 - 臨床研修病院合同説明会の開催や病院見学旅費助成、SNS等による情報発信、県内出身で県外医学部に進学した学生に対する情報提供の充実【しまね地域医療支援センター】	- 地域の実情に応じた調整を行うため、地域医療支援会議において、臨床研修病院の定員設定について審議を行った。 - 島根大学医学部附属病院と県内の中核病院及び医師少数区域等に所在する医療機関と連携したプログラムの設定により、充実した研修を提供した。 - 臨床研修を県内医療機関で実施することを奨学金の返還免除条件とし、令和2年度以降のすべての奨学金種別で適用した。 - 県内外からの研修医の増加を図るため、臨床研修病院合同説明会の開催するとともに、病院見学旅費の支援や、SNS等による情報発信を行った。 <実績：臨床研修マッチング数> R5：56人 R6：54人 R7：45人 <実績：病院見学旅費支援> R5：28名 R6：47名 R7：62名
(8) 専攻医、指導医の確保 - 魅力的な研修プログラムを提供し、県内で勤務する専攻医を確保【専門研修プログラム基幹施設】 - 地域勤務とキャリア形成の両立ができるよう、研修施設や指導医の適正配置、指導体制の確保について基幹施設へ働きかけ【県】 - しまね地域医療支援センターと連携した若手医師のキャリア形成支援と地域医療に貢献できる医師の育成を推進【卒後臨床研修センター】	- しまね地域医療支援センターにおいて、専門研修プログラム合同説明会を行うなど、専攻医確保に向けた県内の研修プログラム情報発信事業を実施した。 - 地域医療支援会議医師研修部会において、県内の専門研修プログラムについての検証や、プログラムの充実に向けた県内の基幹施設への改善要望などについて協議した。 - 県内の専門研修プログラムの充実や専攻医の採用促進に向けた取組を島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センターにおいて実施した。 <実績：専攻医採用数> R6：57人 R7：57人 R8：47人

計画の内容	取組状況・実績
(9) 県内勤務医師の定着促進 - 義務年限が終了した自治医科大学卒業医師に対して、「義務年限明け研修」等の実施による資質向上への支援などにより県内定着を促進【県】 - 医師が働きやすく、家族を含めて暮らしやすい地域づくりや環境整備に取り組むとともに、しまね地域医療支援センター等と連携し、地元出身の地域枠医師等の定着を推進【市町村・病院】	- 自治医科大学卒業医師については、学会等参加支援事業の実施や、義務年限明け研修枠の活用等により資質向上を支援するとともに、しまね地域医療の会等による情報共有に取り組んだ。 - 市町村や地域の医療機関を個別訪問し、しまね地域医療支援センターより地域枠医師等の情報提供、地域課題の共有等情報交換を行った。 ＜実績：学会等参加支援事業＞ R5：16人 R6：17人 R7：15人 ＜実績：義務年限明け研修派遣者数＞ R5：0人 R6：0人 R7：1人 ＜実績：しまね地域医療の会開催回数＞ R5：1回 R6：1回 R7：1回
(10) 医師の招へい 赤ひげバンク登録医師等に対する積極的な情報発信により、問い合わせを増加させ、専任担当医師による出張面談や、「地域医療視察ツアー」等を通じた県外在住医師の招へいをより一層推進【県】	- インターネットや医学専門誌、新聞広告などにより県外の医師に対して広く情報発信を行うと共に機関誌「島根の地域医療」を定期的に発行し、赤ひげバンク登録医師等へ県内の地域医療に関する情報発信を実施した。 - また、赤ひげバンク登録者に対して専任担当医師による面談や地域医療視察ツアーを行い、招へいに向けた支援を実施した。 ＜実績：医師招へい数＞ R5：5人 R6：8人 R7：3人
(11) へき地医療を支える医師の確保（総合診療医・病院総合医の確保） - 総合診療医の養成・確保のため、研修プログラムの充実を図る。【総合診療専門研修プログラム基幹施設】 - 総合診療医を目指す医師や医学生の増加につながるよう、関係医療機関間のネットワークづくりや、プログラム作成・指導体制の整備支援、関係機関と連携した情報発信等を行う【島根大学医学部地域医療支援学講座】 - 地域医療に関する理解を深めて総合診療に興味を持つ学生や臨床研修医が増えるよう、医療機関や市町村等と連携し交流会を開催【島根大学医学部附属病院総合診療医センター】 - 良質な総合診療医を目指す医学生を育成するため、指導体制の充実を図る【島根大学医学部附属病院総合診療医センター】 - 総合診療専門医の資格取得後、新家庭医療専門医や病院総合診療医の資格も取得ができるプログラムを備え、病院総合医の確保に向けて、研修体制の強化を図る【県立中央病院地域総合医育成科】	- 医師や医学生を対象にしまね総合診療の集いなどの研修、総合診療科の活動について論文の投稿、専門医プログラム説明会等を実施した。 - 高校生、医学生、臨床研修医、総合診療医、医療機関や市町村を対象とした講演やフィールド学習を実施し、総合診療に興味を持つ学生及び臨床研修医の増加に取り組んだ。 - 医学生の地域実習を、地域の医療機関の総合診療医が調整し受け入れたほか、大学の授業に地域の総合診療医が講師として参画し、指導体制の充実を図った。 - 専門医師による高度な手技の指導や地域医療のレクチャーを実施し、研修プログラムの充実を図った。（年間23回実施）

計画の内容	取組状況・実績
- 地域医療連携推進法人の活用をはじめとした各圏域における診療応援等の連携体制強化を支援【県】 - 医師少数区域等の医療機関等が連携して取り組む医師招へい事業や、新規に雇用する医師への資金貸与事業などの医師確保事業を支援【県】	医師招致事業や定期的にへき地診療所等へ派遣して生じる逸失利益など支援する補助事業（医師確保計画推進事業費補助金）を実施した。 〈実績：医師確保計画推進事業費補助金採択団数〉 R5: 6団体 R6: 8団体 R7: 9団体
（12）地域医療支援会議における協議 - 医師確保対策をはじめとする地域医療支援事務に関する協議の場として機能するよう取り組む【県】 「医師専門研修部会」を設け、専門医制度に関する協議を実施【県】	- 地域医療支援会議において、医師の派遣調整等のほか、大学と調整したうえで、地域枠設定を行った。 - 医師専門研修部会において、専門研修プログラムの検証や充実についての協議を行った。
（13）医師の働き方改革を踏まえた医療従事者の勤務環境の改善 - しまね地域医療支援センターと連携を図りながら、医師の働き方改革の取組を促進【島根県医療勤務環境改善支援センター】 - 子育て中の医師が医師少数区域等に赴任しやすい環境整備やサポートを充実 - 医師事務作業補助者の確保や、特定行為研修修了看護師や認定看護師の確保によるタスクシフトを推進し、勤務医師が健康を確保しながら働くことができる勤務環境整備を推進。 - 県と連携のうえ、医師少数区域等において勤務する医師の休養や、勤務する医師が研修等へ参加するための代診医を確保【各医療機関】 - まめネットの整備・普及を進め、迅速かつ適切な情報共有、web会議の活用等を推進し、医師をはじめとする医療従事者の負担の軽減や、地理的・時間的な制約の解消を促進 - 医師の負担軽減のため、医療機関のかかり方等について県民へ普及啓発	- 地域医療勤務環境改善体制整備事業費補助金や、地域医療勤務環境改善体制整備特別事業費補助金により、医師の時間外削減に係る取組（DXの導入や人件費、研修受講料など）を支援した。 - 代診医派遣制度に基づき、対象医療機関からの要請に応じて、県立病院の協力の下、医師の派遣を行った。 - まめネットに、CTやMRIの画像を共有できる「画像オブション機能」を追加するなどの機能拡充を行った。 - 重点医師偏在対策支援区域における診療所の承継・開業を支援した。 〈実績：代診医派遣実績〉 R5：167人 R6：102人 R7：124人 〈実績：診療所の承継・開業支援〉 R7：1機関